

小中学校と大学の連携による五感を記録した地域発見マップの制作

—石川県輪島市三井町を事例として—

棟近貴之 伊藤竜太郎 栗田和弥 上岡洋晴 麻生恵

[東京農業大学自然環境保全学研究室、観光レクリエーション研究室]

キーワード：五感マップ、石川県輪島市、能登三井、グリーンツーリズム、ウォーキング

自然環境保全学研究室・観光レクリエーション研究室では2006年から石川県輪島市三井町地区を対象に、環境教育・里山調査研究・地域づくりの実践の場などとして継続的に活動を実施している。2012年度には、地域在住の小中学生が大学生と共に里山を歩き、その時に印象に残った「五感」を地図にしていくデータ収集と中間報告を現地で行った。歩きながら目にするもの・こと（視覚）だけでなく、他に耳に入ってくる音（聴覚）や香り・匂い（嗅覚）、道ばたで見つけたものの手ざわり（触覚）、食べることのできる草花や野菜の味（味覚）といった慣れ親しんだ風景の中から具体的に視覚化（図化）することを実施した。本稿では、特に地元住民だからこそ知っているような場所、子どもの感覚だからこそ理解できること、当たり前なことだが他県や都市住民には気づかない点などが集められたことを報告する。

観光地における賑わいのある空間構造に関する研究

○石川政志 [東京農業大学] △栗田和弥 [東京農業大学]

キーワード：温泉地、観光地、観光客、賑わい空間

観光客の志向の変化は、社会の成熟に伴い多様化した。特にこれまでの集客することだけが課題だった団体による宴会型の観光から、個人や家族、小人数でリピーターとして馴染みのある地域に滞在し体験し交流する目的型旅行へと移り変わっていると考えられる。したがってこれからの観光地は何度でも訪れたいような新たな魅力づくりが必要とされている。魅力ある空間は様々であるが、その一つには歩く人々が創り出す「賑わいのある空間」が形成されているという考え方がある。本研究ではどのような空間に人が集まり、歩き、賑わいが生まれるのかを検討するため、対象地として草津温泉、道後温泉、湯布院温泉、黒川温泉の4カ所の観光地を事例とし、現地調査により観光客の人数カウント、空間構造の特徴の記述を行った。中心地と繋がりのあるいくつかの通りを主な調査対象とし、2時間毎に計測を実施した。人数からみた結果としては、想定される目的地へとつながる通りが最も賑わいが創出されていることが確認された。また、歩く空間の距離、歩く空間の幅員、地区の面積などの要素を含めて賑わう空間の構造について考察を行った。